

編集後記

2011年に、名古屋大学大学院国際言語文化研究科国際多元文化専攻アメリカ言語文化講座所属の大学院生および修了者を中心に、「名古屋大学アメリカ文学・文化研究会」という名称の研究会を立ち上げました。本誌『名古屋アメリカ文学・文化』は、当研究会の機関誌として位置づけられるものです。主として、研究会メンバーによる研究論文を掲載しますが、これに加え、書評、翻訳、特別寄稿文等も掲載していく計画です。

研究会は、メンバーによる研究発表とゲスト・スピーカーによる講演をその主たる内容として、原則的に毎月開催しています。2011年12月には、シドニー大学の Mark Byron 氏による講演 “In a Station of the Cantos: Ezra Pound’s ‘Seven Lake Canto’ and the Sho-Sho Hakkei Tekagami” を拝聴しました。また、2012年3月には、基調講演者としてミネソタ大学の Paula Rabinowitz 教授をお招きし、シンポジウム “Revisiting the Great Depression in American Literature” (基調講演 “Ventriloquizing Class: American Women’s Letters, Lectures and Lyrics” を含む) と、セミナー “Talking of Depression-Era Films” を開催しました。こうした催しを通じて、研究会のメンバーが、また地域の大学院生、研究者の皆さんが、国内外の研究者と交流を深め、その経験をそれぞれの研究の進展につなげていただければと願う次第です。

本創刊号には、論文5本と書評1本を掲載することになりました。いずれも上記研究会メンバーによる研究の成果です。建設的な批評を頂戴できれば幸いです。

なお、本誌のオンライン版を研究会のウェブサイトに掲載する予定です。URL は <http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~nagahata/nagoyau-amlitcul/> です。

(長畑明利)